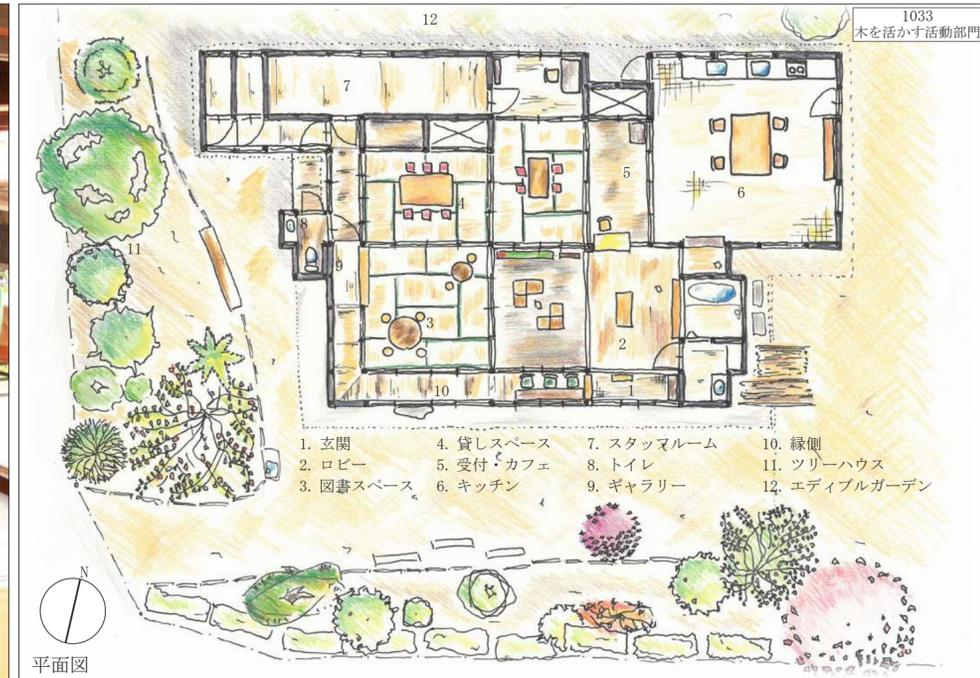


# ほたる荘

～かやぶき古民家保全活用プロジェクト～



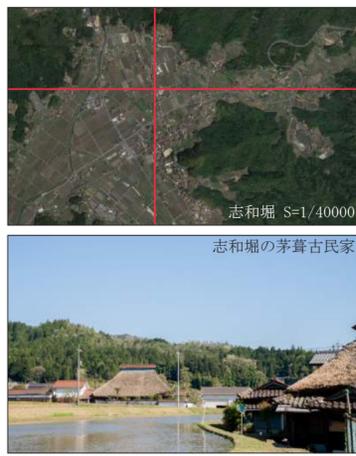
## 0 プロジェクトカレンダー

地域との関わり 茅葺古民家との関わり 広報活動

2016年								2017年											
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

プロジェクト START	プロジェクトの基本方針決定												地域交流イベント												ほたる荘を活かしたイベント																							
	<p>□企画</p> <p>ほたる荘を新たに生まれ変わらせるにあたってまずは、現状と課題・目的を明確にした。その後、建築的な解決手法の検討やメンバー集めを行った。</p>												<p>□伝統行事</p> <p>日本に古来からある伝統行事を活かしたコト作りを通して多くの方にほたる荘のこと認知してもらう。そして、OPENまでに地域に少しでも馴染んだ形を目指した。</p>												<p>□地域イベントの参画</p> <p>志和で行われている地域イベントの会場としてほたる荘を活用する。子どもから大人までが参加出来る、多くの方にほたる荘の空間としての豊かさを感じてもらおう。</p>												<p>□学びの場</p> <p>食や芸術、木工をテーマに学生がイベントの企画・運営を行う。地域のコンテクストを活かしながらのイベントは来場者にほたる荘や志和に関心を持ってもらう。</p>											
	床下修復				壁面修復				内装や家具のデザイン・製作				ローカルテレビによる取材				茅場復活に向けて				写真展 - しわのいいとこみつけた																											
	<p>□経験</p> <p>劣化の激しかった床下の修復から行った。再利用が可能な部材は用途を変え、利用した。</p>				<p>□技術の継承</p> <p>漆喰壁の塗り方やほぞの欠き方等は、地元工務店の方の指導の元、行った。</p>				<p>□デザイン</p> <p>芸術系の学生を中心に内装のデザインを行った。また、家具は建築系の学生は、古材の再利用を通して家具を製作した。</p>				<p>□拡散</p> <p>TV、ラジオ等の媒体を通してプロジェクトの様子を拡散することで茅葺古民家の現状を多くの方に伝えた。図書の本は、SNSを通して寄贈の形で集めた。</p>				<p>□魅力の発信</p> <p>広島大学写真部が撮影した写真や地域の方から提供して頂いた日常の写真を活かしたギャラリーにて展示した。来館者は、写真を通して志和の魅力を見つけた。</p>																															

## 1 志和堀のかやぶき古民家



### 1.1 敷地

敷地の東広島市志和堀は、小高い山々に囲まれた盆地である。カワセミやホタルが生息するきれいな川や棚田、レンコン畑といった自然がその姿を彩っている。そんな志和堀には、今現在も住宅や自然学校、お食事処として活用される茅葺古民家が6軒残っている。本プロジェクトの対象物件である「ほたる荘」もその内の1軒であり、築約100年の芸州流の茅葺屋根の古民家である。

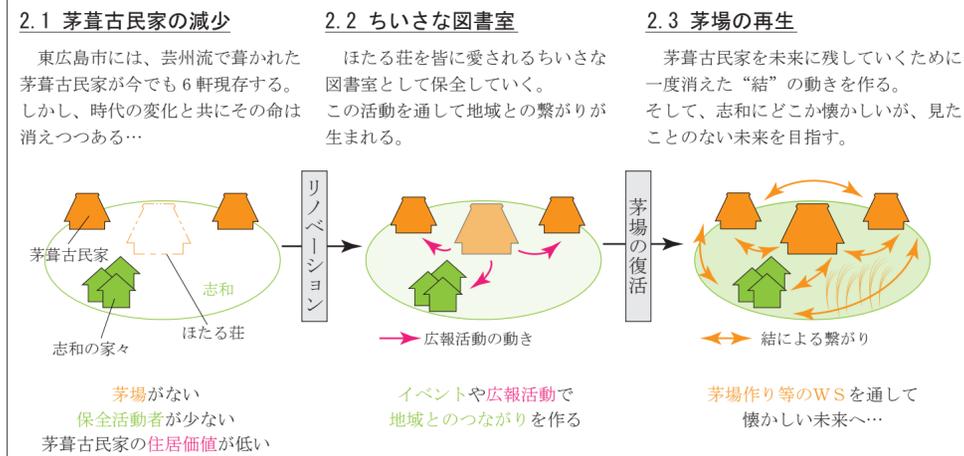
### 1.2 課題

現在、志和堀の茅葺古民家は主に以下のような課題を抱えている。

1. 茅を育てて保存するための茅場がない
2. 茅葺古民家への関係者人口（住民や保全活動者）が少ない
3. 茅葺古民家に対する住居価値があまりない

このような課題に対して地域住民、学生が協力し取り組んでいく。

## 2 保全の流れ



## 3 懐かしい未来へ

### 3.1 懐かしい景色

日本には、古来より茅の葺き替えのような一人で行うには多大な費用と期間、労力が必要な作業を、小さなコミュニティにおいて相互扶助の精神で行う「結」と呼ばれるものが存在した。

しかし、「コミュニティの変化や茅場に対する需要と経済性の低下」といった理由から結はいつしか消え去った…

そこでまず、結のようなどこか懐かしい景色であり、見たことのない未来に向けて茅場再生に取り組んだ。

### 3.2 未来へ

現在、これからも茅葺古民家を残すために以下の活動を実施している。

□活動事例

茅塔がいくつも出来ていく様子